

## 中学校英語検定教科書における不定詞の名詞用法の導入文

### —— “want to~” 以外の例文について ——

及川賢 埼玉大学教育学部言語文化講座英語分野

キーワード: 中学校、英語、検定教科書、不定詞、名詞用法

#### 1. はじめに

文部科学省検定済教科書（以下「検定教科書」あるいは「教科書」）は中学校における外国語（以下「英語」）指導の主たる教材であり、その内容や記述方法が生徒の学習に与える影響は大きい。また、英語が日常場面で使われることが極めて少ない日本において貴重な英語インプット源になっている。一方で、英語の授業時数は限られており、中学校1～3の各学年の時数は140時間で、多くの生徒の母語である日本語との距離が大きいとされる英語の習得には不十分な時数である。そのため、教科書が掲載する文法・語彙は厳選する必要がある。

及川（2013）は当時日本国内で使用されている中学校の英語の検定教科書（平成24年改訂版）が取り上げている文法項目の中から、疑問詞 *what* を含む文、不定詞の名詞用法、未来表現の3つに着目し、それぞれの問題点を指摘し、改善案を提示している。このうち、不定詞の名詞用法は、その導入時に提示される目標文や本文中の英文がほとんど「*want+to+動詞の原形*」になっていることを指摘し、それが不適切であると論じている。「*want+to+動詞の原形*」は不定詞の視点で分析すると、「*want+不定詞 (to+動詞の原形)*」になるが、実際には、小学校でも「*want to~*」の形で指導されている点などを踏まえ、「*want to+動詞の原形*」と認識される可能性が高く、名詞用法の導入時に使う英文としては不適切であると主張している。

検定教科書は4～5年で改訂されることが多く、その後、平成28年と令和3年に改訂されている。本稿は不定詞の名詞用法の導入時に使われる英文がその後も「*want+to+動詞の原形*」の形を継続しているのか、あるいは *want* 以外の動詞が主動詞で使われているのかを調査する。なお、本稿では検定教科書名を必要に応じて以下の通り表記する。

*Columbus 21 English Course* → *Columbus*

*New Crown English Series* → *Crown*

*New Horizon English Course* → *Horizon*

*One World English Course* → *One*

*Sunshine English Course* → *Sunshine*

*Total English* → *Total*

*Here We Go!* → *Here*

*Blue Sky* → *Blue*

#### 2. 先行研究

不定詞の指導で使用する英文の適切さを論じた文献は極めて少ない。及川（2013）は平成24年改訂の中

学校英語検定教科書が扱う 3 つの文法項目（疑問詞 *what*、不定詞の名詞用法、未来表現）の配列等を取り上げ、それぞれの問題点を指摘し、改善案を提示している。このうち、不定詞の名詞用法については、初出時に各検定教科書が使用している目標文と本文の英文に偏りがある点を指摘している。具体的には以下の通りである。

**【Columbus】**

目標文：I wanted to play the *sanshin*.

本文：I wanted to play the *sanshin* myself.

**【Crown】**

目標文：Amy wants to read the book.

本文：I want to go to a farm.

I want to work in a department store.

**【Horizon】**

目標文：I want to use English in my future job.

本文：I want to use English in my future job.

Oh, what do you want to be?

I want to be a computer programmer in the United States.

I'm not sure, but I want to work in Japan.

**【One】**

目標文：I want to show you around Asakusa.

本文：I want to show you around Asakusa.

**【Sunshine】**

目標文：I want to be a doctor.

Do you want to help sick people?

本文：Do you like to play with children?

I want to be a nursery school teacher in the future.

I would like to take care of children.

**【Total】**

目標文：I like to use computers.

本文：So I want to go to a pastry shop for career experience.

I need to think about it.

Total 以外のすべての教科書が目標文に *want* を使っている (Total は *like* を使っている)。本文に出てくる英文を見ても、4 社 (Columbus、Crown、Horizon、World) は主動詞が *want* の文のみを提示している。*want* 以外の動詞等を使用している教科書は 2 社で、Sunshine は *like* と *would like* を、Total は *want* のほかに *need* を使っている。全体的に見て、名詞用法の導入に *want* を使っている割合が非常に高い。

*want* を使った導入方法では、不定詞の形と意味が正確に理解されない危険性があると及川は指摘する。

「*want*+*to*+動詞の原形」は、不定詞の視点で分析すると、「*want*」と「*to*+動詞の原形」に分けられ、「*to*+動詞の原形」の部分が不定詞の名詞用法になる。しかし、このパターンは「*want*+*to*+動詞の原形」として学習者に認識される可能性が高い。その根拠の一つは、小学校ですでに「I want to～」の形で児童が自分の

希望や夢などを英語で語る場面があり、「want to+動詞の原形」で「～したい」と児童が認識している可能性が高い点と、その形が不定詞として解説されている可能性は極めて低いことを挙げている。また、傍証として、中学校の教科書6社中4社が巻末の単語リストに「want to～」を載せ、「～したい」という訳語を付している点も挙げている。

不定詞の3用法(名詞、形容詞、副詞)の導入順序を見ると、6社中5社が名詞用法を最初に置いており、「want to～」は不定詞そのものの導入で生徒が最初に出会う不定詞である。この表現を目標文や本文に使うことで、学習者が「to+動詞の原形」という不定詞の基本形を十分に認識できない可能性がある。

これらを踏まえ、及川はwant以外の動詞を主動詞として使うことを提案している。例えば、すでにTotalで使用しているneedは不定詞を伴うと「～することが必要だ」という意味になり、不定詞の部分が「～すること」という名詞用法として理解される可能性がwantよりも高い。あるいはbe動詞を主動詞として使い、My job is to teach English to high school students. や To teach English to high school students is my job.のように補語や主語として使うことで「to+動詞」が「～すること」という意味になることを捉えやすくするよう提案している。

谷(2015)も同様の指摘をしている。谷も中学校用英語検定教科書のうち5社が不定詞の名詞用法の導入にwantを使っている点を指摘し、「want to～」のto不定詞は独立性が低く、連鎖動詞の一部とみなされやすいので不適切だと述べている。

及川他(2020)は302名の中学生を対象に不定詞の理解度を調査した。不定詞を含む9つの英文を用意し、不定詞の部分を和訳させる課題で理解度を確認した。9つの英文は名詞用法、形容詞用法、副詞用法それぞれを含む英文が3つずつで、合計9である。このうち名詞用法を含む英文は以下の3文で、それぞれの右にある数値は正答率と標準偏差である(カッコ内が標準偏差)。

(1) Her dream is to live in America. 0.95 (0.224)

(2) To read an English book is fun. 0.91 (0.286)

(3) Mike wants to teach English. 0.67 (0.473)

(1)と(2)は9つの不定詞の文の中で正答率がそれぞれ1位、2位と高い一方で、(3)は6位である。一元配置の分散分析及び多重比較の結果を見ても、(3)は(1)及び(2)よりも有意に低い。この結果から著者らは不定詞の指導ではwant以外を主動詞にした英文の利用を提言している。

### 3. 平成28年改訂版検定教科書における導入文及び本文中の英文

では、その後、検定教科書が不定詞の名詞用法の導入に使った英文はどう変化したのだろうか。まずは、平成28年改訂版を見てみよう。目標文の英文中の太字は各教科書からそのまま引用している。

#### 【Columbus】

目標文：I **want to be** a musician.

本文：I want to be a musician in the future.

#### 【Crown】

目標文：Amy wants **to read** the book.

本文：I want to go to a nursing home.

But you want to be an engineer, don't you?

【Horizon】

目標文：I want **to be** a chef.

本文：I want to be a chef.

I tried to learn the whole menu, but I couldn't.

I want to be a journalist.

I want to hear about it.

【One】

目標文：I **want to be** a teacher.

本文：I want to be a fairy.

Do you want to be a witch?

【Sunshine】

目標文：I want **to be** a music teacher.

Do you want **to sing** with students?

本文：Do you like to play with children?

I want to be a nursery school teacher in the future.

I'd like to take care of children.

【Total】

目標文：I like **to talk** with people.

本文：I want to go to a nursery school.

I need to think about it.

What do you like to do?

Uh, I like to talk with people.

平成28年改訂版の傾向は平成24年改訂版とほぼ同じである。すなわち、目標文ではTotal以外のすべての教科書が「want+to+動詞の原形」となっている。また、本文中でwant以外の動詞を主動詞で使っているのはHorizon、Sunshine、Totalで、24年版より1社(=Horizon)増えたのみである。使われている動詞はlike(Sunshine、Total)、need(Total)、try(Horizon)で、tryが新たに加わったのみである。

#### 4. 令和3年改訂版検定教科書における導入文及び本文中の英文

続いて、令和3年改訂版の不定詞名詞用法導入時の目標文及び本文を見てみよう。ここでは、平成28年改訂版とは大きな違いがみられる。なお、検定教科書の総数はそれ以前と変わらず6社だが、*Total English*が発行を停止し、*Blue Sky*が新たに参入した(出版社は異なる)。また、*Columbus*が名称を変更し、*Here We Go!*になった。目標文の英文中の太字は各教科書からそのまま引用している。

【Blue】

目標文：My dream is **to be** a doctor.

I want **to help** people.

本文：My dream is to be a doctor or a nurse.

I want to help people, too.

**【Crown】**

目標文：Koji wants **to read** the book.

My dream is **to be** a teacher.

本文：I want to work at a farm.

My plan is to learn about farming.

I want to go with you.

**【Here】**

目標文：Hajin wants **to shoot**.

The important thing is **to pass** the ball to Hajin.

本文：Hajin wants to shoot.

The important thing is to pass the ball to Hajin.

They're trying to stop Kota.

**【Horizon】**

目標文：She wants **to help** people.

She tries **to do** her best.

本文：What do you want to be in the future?

I want to be like my cousin.

I want to help people, too.

She always wants to help people in need.

It's sometimes difficult, but she tries to do her best.

I want to be like her.

I'm not sure about my future job, but I want to help others, too.

**【One】**

目標文：I **want to have** green tea.

本文：Companies are always trying to improve their products.

They need to think of their customers.

**【Sunshine】**

Scenes（目標文）：I want **to see** your performance.

Think（本文）：I want to eat an “American dog.”

What do you want to have?

I want to have something sweet.

すぐにわかることは、主動詞に **want** 以外のものが増えたという点である。**want** は全社で目標文に使用されており、平成24年改訂版、28年改訂版の5社よりも1社増えているが、これは、それまで **want** を使っていなかった **Total** が発行されなくなったことが影響している。

一方で、**want** 以外の動詞として **be** 動詞 (**Blue**、**Crown**、**Here**) と **try** (**Horizon**) が主動詞として使われるようになった。この4社は目標文を2つにしており、1つが **want** を使用した文で、もう一つがそれ以外の動詞を使用している。

My dream is to be a doctor. (Blue)

My dream is to be a teacher. (Crown)

The important thing is to pass the ball to Hajin. (Here)

She tries to do her best. (Horizon)

【下線はすべて筆者による】

不定詞の名詞用法の導入時に want を主動詞として使うことの問題点として、学習者が「want to～」を頭の中で「～したい」という日本語に置き換えてしまい、「to+動詞の原形」という不定詞の形を十分に認識できない可能性があることは既に指摘したが、上記のそれぞれの文であれば「私の夢は医者になること」「私の夢は教師になること」「大切なことはボールをハジンにパスすること（バスケットボールのシーン）」「ベストを尽くすことをトライする」となり、「to+動詞の原形」を一つのまとまりとして認識する可能性が高まったと言える。

「try to～」は「～しようとする」と訳すことができ、「want to～」の「～したい」と同じように不定詞の形を認識しにくい可能性があるが、「try to～」は「～することを試す、やってみる」と「～すること」と「試す、やってみる」を切り離して理解することが可能である。この日本語で指導すれば日本語として不自然ではない。「want to～」では「～することが欲しい」という不自然な日本語になることを考えれば、try の使用は進歩と言えるだろう。

また教科書本文でも want 以外の動詞が増えた（下線はすべて筆者による）。

#### 【Blue】

My dream is to be a doctor or a nurse.

I want to help people, too.

#### 【Crown】

I want to work at a farm.

My plan is to learn about farming.

I want to go with you.

#### 【Here】

Hajin wants to shoot.

The important thing is to pass the ball to Hajin.

They're trying to stop Kota.

#### 【Horizon】

What do you want to be in the future?

I want to be like my cousin.

I want to help people, too.

She always wants to help people in need.

It's sometimes difficult, but she tries to do her best.

I want to be like her.

I'm not sure about my future job, but I want to help others, too.

#### 【One】

Companies are always trying to improve their products.

They need to think of their customers.

【Sunshine】

I want to eat an “American dog.”

What do you want to have?

I want to have something sweet.

平成28年改訂版と比べると、1) like が無くなった、2) be 動詞が増えた、の2つが今回の特徴である。2) の be 動詞のパターンだと不定詞部分が「～すること」として認識される可能性が高まるので、進歩と言える。一方で、like 及び would like はなくなった。

不定詞に関する変化は他にも見られる。まず、不定詞の導入前に「want to～」の文を目標文として扱うようになった教科書が2社ある (Here と Horizon)。

【Here】1年生

目標文： I want that blue balloon.

I want to get that blue one.

Do you want to try it? →この3文は want の位置を揃えて提示している。

本文： Do you want to try it?

Yes. I want to get that blue one.

【Horizon】1年生

目標文： I want to win the game.

I want to be a good soccer player.

本文： I want to win the game.

I want to be a good soccer player.

Well, someday I want to play in the World Cup.

どちらも、1年生の1学期相当の課で導入しており、これまでの検定教科書の不定詞名詞用法と比べると、導入時期がかなり早い。もっとも、どちらも不定詞としてではなく、連語として扱っている。Horizon は上記の目標文の横に『・・・したい』と言うときは want to... を使う。『・・・になりたい』と言うときは want to be... を使う」という説明を入れており、明らかに不定詞ではなく連語の一つとして導入している。Here も「～したいことを言ったり、たずねたりする」という機能を説明し、さらに、目標文の横に「want to+動詞の原形」というタイトルと「want の後ろに動詞を続けるときは、動詞の前に to を置きます。〈to+動詞の原形〉で、「～すること」と言う意味になり、名詞と同じような働きで使うことができます」と説明し、「want to～」を連語の一つとして扱っている。一方で、Here は「不定詞」という表現は使用していないものの、ここでの「to+動詞の原形」が名詞と同じ働きをすることを明示しており、2年生で導入される不定詞の名詞用法への布石となっている。

この2社が不定詞を1年生の早い時期に導入した理由は示されていないが、前述のように小学校5年生及び6年生で既に扱われており、中学1年生には既に馴染みの表現になっていること、「want to=～したい」は自己表現に使える便利な表現であるため、早い段階で導入しておくことが有益と判断したものと考えられる。

また、「want to～」を不定詞導入前に本文で使う例が増えた(5社)。1年時に「want to～」を目標文として導入している Here と Horizon 以外の4社のうち、3社 (Blue、One、Sunshine) も1年生の早い段階から

「want to～」を使っている（Crown は不定詞導入前に「want to～」は使っていない）。

**【Blue】** 1 年生

I want to join the tennis team. →下線はすべて筆者による。

But I want to grow cherries with him someday.

I want to go to Kanazawa.

A farmer wants to cross a river.

He wants to take a wolf, a goat, and a cabbage with him.

→巻末の Word List には「want 動 ～がほしい、「want to～」 ～したい」の記述あり。

**【Blue】** 2 年生（不定詞導入前）

I want to take many pictures.

I want to watch dolphins, too.

If you want to use a toilet, you have to open the manhole first.

**【Here】** 1（目標文として want to を示す前）

Where do you want to go?

I want to go to ....（→ライティングとして）

**【Horizon】** 1 年生（目標文として「want to～」を示す前）

I want to join the dance team.

I want to join the art club.

**【One】** 1 年生

I want to join the baseball team.

I want to be a good player like Tsubasa.

She wants to play in the U.S.

I want to play soccer with her.

I want to meet her.

I want to be a great jumper like her.

Which do you want to order?

→巻末の Word List 2 には「want 動 ① [「want to～」で] ～したい、②～がほしい」の記述あり。

**【Sunshine】** 1 年生

I want to go to...（→to 以下に行きたい国を入れる活動）

What do you want to be?

I want to join the basketball team.

I want to go to the gym.

I want to play the game.

I want to see it.

→巻末の「単語と熟語」には「want to～ ～したい」の記述あり。



これだけ多くの教科書で「want to～」を使っているのは、前述の目標文の場合と同じで、小学校で「want to～」を扱っていること、自己表現に使える便利な表現であること、また、不定詞として導入する前に定型句として導入し、学習者が慣れておくことを目指しているものと思われる。

## 5. 考察

令和3年改訂版の多くの教科書で不定詞の名詞用法の導入に want 以外の動詞が主動詞として使われるようになった理由は筆者が入手できる範囲の情報には明記されていない。教師用マニュアルにその理由あるいはそれにつながる情報が掲載されている可能性があるが、これらは教科書を採択している地域の教員以外には入手できない。今後はこれら教科書の編著者等へのインタビューなどを通じて情報を収集することが考えられる。

同様に、「want to～」が1年生で目標文の表現になったり、本文中で使われることが増えた背景も明らかになっていないが、ある程度推測することは可能であろう。令和3年4月より新たな検定教科書である令和3年改訂版が使われ始めた。前の版である平成28年版から5年を経ての改訂であるが、この間、中学校外国語（英語）をめぐる状況に大きな変化があった。

平成29年に小学校及び中学校の学習指導要領が改訂され、小学校は令和2年4月から、中学校はその一年後の令和3年4月からそれぞれ全面実施となった。特に小学校での変化が大きい。それまで高学年（5、6年生）で年間35時間実施されていた「外国語活動」が中学年（3、4年生）になり、高学年は新たに「外国語」が各学年で年間70時間設定された。内容も大きく変わり、外国語活動の目的が外国語によるコミュニケーション力の素地を育てること、すなわち外国語による体験を重視し、必ずしも外国語の定着を目指していなかったのに対し、新たな科目である「外国語」は外国語、特に音声面での定着を目標としている。

高学年で扱う言語材料は be 動詞、一般動詞、疑問詞（who、which、whose、how）、can、want to などがある。そのため、それまで中学校で扱っていた言語材料が小学校で扱われるようになり、中学校で扱う言語材料に変化が生じた。例えば、「how many～」は中学校の2社が目標文として扱っていない。

これらの項目は高学年が外国語活動であった頃も文部科学省が作成した教材である *We Can!* などで扱われていたが、当時は、上述のように言語材料の定着が目的ではなかったため、それらの定着を前提として中学校の教科書を編成することはできなかった。しかし、「外国語」が定着を目標とするようになったことで、これらの項目が一定程度定着していると見做して中学校の教科書を編集することが可能になった。そのため、小学校で既に導入されている「want to～」が連語として数多く使われるようになったと考えられる。

一方で、不定詞の形式を捉えにくい want がすべての教科書に主動詞として残っている理由も今後調査をしていかなければならない点である。一つの可能性として、学校現場で「不定詞の名詞用法＝want to～」が長い間使用されてきたため、これ以外の動詞を主動詞に使うと学校現場から疑問や不安の声が多く寄せられる可能性があるため教科書会社側が判断した可能性がある。検定教科書は文部科学省による「お墨付き」をもらっているとは言え、各教科書会社が扱う「商品」である。発行部数は各社の経営等に影響を与えるため、学校現場の感覚を尊重したのかもしれない。そのためなのか、want を主動詞にした目標文と他の動詞を主動詞にした目標文の2つを並列して示した教科書が6社中4社あった。今後は、この並列の理由も明らかにしていく必要がある。

先行研究の概観で示した通り、及川他（2020）により、want を主動詞とした不定詞の文の理解度が be 動詞を主動詞にした英文（＝不定詞の名詞用法が主語または補語）よりも理解度が低いことが示されている。

今後は want が主動詞の文が目標文から外れることが望ましいと思われる。

## 6. おわりに

本稿では、不定詞の名詞用法の導入に want が主動詞として使われていることの問題点を指摘した及川(2013)を受けて、その後の検定教科書が名詞用法の導入にどのような動詞を主動詞として使用しているかを調査した。平成28年改訂版では大きな変化は見られなかったが、令和3年改訂版では want 以外の動詞が以前よりも多くみられるようになった。これにより、学習者が不定詞の形式をこれまでよりも捉えやすくなったと考えられる。また、一方で、want を主動詞にした目標文がすべての教科書で扱われている原因等もさらに調査をしていく必要があることが示された。学習者の不定詞の理解を更に高める目標文等の追求が今後も望まれている。

## 引用文献

- 及川賢(2013)「中学校英語検定教科書における文法・語彙項目の導入時の問題点：疑問詞 what、不定詞の名詞用法、未来表現」『埼玉大学紀要 教育学部』62(1)、191-202.
- 及川賢、永島小夜香、岡本陽香、吉岡駿之介、小嶋蓮、樋口萌々子、八渡萌友(2020)「中学生の不定詞理解に関する調査」『埼玉大学紀要 教育学部』69(2)、437-451.
- 谷光生(2015)「中学校英語教科書における to 不定詞の扱い：その不備と今後の改善について」『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』1、123-130.

\*本稿で対象となった検定教科書一覧

### 【平成28年改訂版】

*Columbus 21 English Course* (東後勝明他 光村図書)  
*New Crown English Series* (根岸雅史他 三省堂出版)  
*New Horizon English Course* (笠島準一他 東京書籍)  
*One World English Course* (松本茂他 教育出版)  
*Sunshine English Course* (松畑熙一他 開隆堂出版)  
*Total English* (矢田裕士他 学校図書)

### 【令和3年改訂版】

*Blue Sky* (田尻悟郎他 啓林館)  
*Here We Go!* (太田洋他 光村図書)  
*New Crown English Series* (根岸雅史他 三省堂出版)  
*New Horizon English Course* (笠島準一他 東京書籍)  
*One World English Course* (本多敏幸他 教育出版)  
*Sunshine English Course* (卯城祐司他 開隆堂出版)

(2021年9月30日提出)  
(2021年11月10日受理)